



秋竹小 学校だより

第141号 平成26年11月26日

小春日やかたち楽しき竹細工

## 森林の学習(11/20)

4年生は、環境学習の一環として、森や木が人間の生活に大切な役割をしていることを学びました。日本では見られないような大きなまっぼっくり(外国産)も見ることができました。

また、机の上の学習だけでなく、実際に、ヒノキの間伐材を使って、熊の置物を作るなどの学習もしました。ふだん、木や森などについて考えたりすることがありませんでしたが、今回の学習で、少し森林が身近に感じられたようです。



## 放送委員会の取り組み

給食放送を担当している放送委員会は、少しでも楽しい時間にしてほしいと、いろいろな取り組みをしています。現在行っているのは、「人物当てクイズ」です。放送室から「わたしは、〇年生です。好きなものは、～」とヒントを出して、教室で聞いているみんなが人物を当てるといふものです。

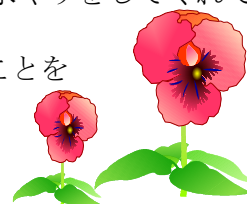
6年生から順に、数名ずつおこなってきて、最近では低学年へと進みました。教室で聞いている子どもたちは、最初に声を聞いただけで「あっ、〇〇ちゃんだ」と答えがわかってしまうようです。特に、高学年の声はすぐわかる子が多く、さすが、なかま活動している秋竹小ならではのことだと、改めて小規模校のよさを感じました。

## 環境委員会の取り組み

PTA 環境整備委員会のお母さん方による花壇整備が終わり、あちらこちらの花壇がとてもきれいになりました。

さて、この後は児童にバトンタッチします。しかし、担当者は、時節柄、1学期のように水やりをしたものかどうか悩んでいました。月曜日になって、児童への指示を出さなかったのですが、環境委員会の6年生がきちんと水やりをしてくれていました。

自分で考え、必要と感じたことを主体的に行動に移すことができる秋竹っ子は、我が校の誇りです。



## 作品展 保護者アンケートより

14・15日の作品展には、たいへん多くの方にご来場いただき、子どもたちの作品を見ていただくことができました。また、その後のアンケートにも、ご協力いただき、本当にありがとうございました。今回お寄せいただいたご意見・ご感想をもとに、2年後の作品展に取り組んでいきたいと考えています。

- 初めて作品展を見て、子どもたちが楽しそうに作っていたと感じられる作品展だった。自分の作品を誇らしげに、しかし少し恥ずかしそうに紹介する姿も新鮮だった。
- 作品展では、盛りだくさんの作品が展示されていて、すごく楽しめた。子どもも自分の学年だけでなく、他の学年の作品を見て刺激を受けていた。展示の仕方も凝っていた。ナイトギャラリーは、家族みんなで見学しやすく、これからも実施していただけたらと思う。
- とても工夫されていて楽しく見ることができた。高学年の作品を見ていると、「何年か後にはうちの子もこんなすごい作品を作れるようになるのかなあ」と、少し不安もあり期待もありで、この先の我が子の成長がとても楽しみに思える。
- 単なる図工作品ではなく、ほかの教科の学習も作品から読み取れる展示だと思った。どの学年も見応えがあり、よかった。
- 学年それぞれの完成度が高くて、がんばりを見ることができよかった。子どもが、1年～6年までの作品展を細かく説明してくれたので、とても楽しむことができた。他学年を思いやる心が見えて、感心した。
- 各学年ともに創意工夫がなされており、楽しく鑑賞することができた。6年生は最後の作品展としての集大成にふさわしい出来映えだった。鳥獣戯画などの水墨画は、とりわけすばらしく、こんなに上手に描くことができることに驚いた。名前の由来についても、親として嬉しくなるメッセージだった。

☆ 夜遅い方や土曜日仕事の方もいるので時間や曜日をもう少し長くしてほしい。

☆ 制作してるときのスナップ写真などがあればと思った。